

【学生フォーラム】

ヴォーリズと近江八幡

愛知学泉大学 家政学部家政学専攻 北村温子

要旨

近江八幡は古くは豊臣秀次の城下町として栄え近江商人発祥の地ともなったまちです。ウィリアム・メレル・ヴォーリズは近江八幡を愛し 1905 年に来日して以降、終生この地に留まりました。本研究はヴォーリズと近江八幡との関係からこれまであまり顧みられることのなかった隠れた魅力を発掘することを目的としました。彼は建築設計、キリスト教伝道活動など多彩な社会活動を展開し、近江八幡のまちづくりにも幾多の貢献を果たしています。それら彼の遺した足跡はこの地の観光に対し新たな資源を提供する存在としても評価できると考えられます。

1. 序論

アメリカ人、ウィリアム・メレル・ヴォーリズは、1905 年に滋賀県立商業学校（現 八幡商業高等学校）の英語教師として来日して以降、近江八幡を愛し、83 年の生涯を終えるまでこの地に留まりました。ヴォーリズは建築設計、キリスト教伝道活動、学校教育、起業、出版と多彩な社会活動を展開した人物です。そして私の母校、近江兄弟社学園を妻・満喜子と共に創り上げた人物でもあります。彼はまた、近江八幡のまちづくりにも幾多の貢献を果たしており、現在の近江八幡にその足跡を知ることができます。その活躍が認められ、1958 年に近江八幡名誉市民第一号に称せられています。

ヴォーリズが創り上げた温もりある空間は近江八幡の地に数多くあります。しかし、残念なことにこれらはあまり知られることなく、ひっそりと佇んでいます。この現状を目の当たりにし、このままではもったいないと思いました。本研究では、ヴォーリズが近江八幡の地に遺したものを観光資源としてみたとき、現在活況を呈しているとは言い難い、近江八幡の観光に対して新たな資源を提供することに繋がるかどうか検討しました。

2. 本論

(1) 来日のきっかけ

ヴォーリズは学生時代にカナダのトロントで開催された海外伝道学生奉仕団大会に参加し、そこで聞いたハワードテイラー女史の中国伝道の話に感化されます。そのことがきっかけで海外での伝道活動の道に進むことを決意します。彼は大学卒業後、ニューヨークの国際 Y M C A 本部に「今までどの宣教師も手をつけなかった国、そして今後も多分、外国伝道師が手をつけそうにないところに派遣してほしい」¹⁾と熱心に依頼し続け、半年後に滋賀県立商業学校の英語教師として日本行きが告げられ、日本に骨を埋める強い決意と共に来日することになります。

(2) 日本での活躍

英語教師としての傍ら自宅を利用して放課後にキリスト教伝道のために行っていたバイブルクラスが原因でわずか 2 年足らずで教壇を降りることになります。職を失った彼は、

来日したときに決心した通り母国に戻らず近江八幡の地に留まります。

ヴォーリズは近江八幡以外でも数々の建築物を手掛けています。代表作として大丸百貨店心齋橋店、大同生命ビル、関西学院大学、神戸女学院大学、同志社大学、大阪教会などが挙げられます。ヴォーリズはその著書『吾家の設計』のなかで、「人の住居はその人を現す」²⁾と述べています。彼は「建物の風格は人間の人格と同じく、その外観よりむしろ内容にある」という考えをもっていたのです。ヴォーリズ建築は日本の気候風土や住習慣に合うように工夫されており、依頼者の要求に応じる奉仕の精神に貫かれています。ヴォーリズを研究している大阪芸術大学助教授山形政昭氏の言葉を借りるならば「実用性に重きを置き、簡潔であるが豊かなデザインと親しみやすく包容力ある空間を有している」³⁾のがヴォーリズの建築の特徴と魅力です。

1918年には結核療養所として近江療養院を開院させます。現在は、ヴォーリズ記念病院と改称し、総合病院となっています。

近江兄弟社のメンタームをご存知の方も多いと思います。この塗り薬を輸入販売したのもヴォーリズです。メンソレータムの発明者ハイド氏から日本での販売権を与えられたヴォーリズは近江セールズ株式会社を設立します。現在は株式会社近江兄弟社と改称し、商品名を「メンターム」として販売されています。

(3) ヴォーリズが近江八幡に遺したもの

ヴォーリズが近江八幡に遺したものは有形、無形を含め多数あります。そのなかで観光と結び付けやすいのが建築物です。彼は30件近くの建築物を近江八幡に遺しました。そのうち現存しているのは23件です。特に私が注目したのは、ヴォーリズ記念館と日牟禮ヴィレッジクラブハリエの日牟禮カフェ特別室、池田町洋風住宅街の三つです。

一つ目のヴォーリズ記念館は彼自身が設計・建築し、後半生満喜子夫人と暮らした家で、現在は彼の遺品や記録、当時使用していた家具などが展示されています。しかし、この記念館は予約制となっているため気軽に入ることができません。

二つ目の日牟禮ヴィレッジクラブハリエの日牟禮カフェ特別室はヴォーリズ建築として雑誌などメディアにも取り上げられており、クラブハリエが発行しているパンフレットやホームページでも紹介されています。和菓子のたねやが洋菓子のクラブハリエを始めたきっかけとなったのもヴォーリズで、クラブハリエとヴォーリズには深い関係があります。しかし、カフェの店員によると、この特別室がヴォーリズ建築であると知っている利用者は極僅かのようなのです。

三つ目の池田町洋風住宅街は、1913年～1935年に近江八幡市池田町につくりあげられたものです。自宅を含む5件の家とテニスコートをつくっており、旧ヴォーリズ邸以外は現在も住居として使用されています。この住宅街はひとつの景観を形成している点が他にはない魅力となっています。

ヴォーリズ精神も彼が近江八幡の地に遺したものの一つです。敬虔なクリスチャンで、奉仕の心を人一倍もっていたヴォーリズから学ぶところは多々あります。彼の遺したものに触れることで大切なことを思い出すことができると考えられます。ヴォーリズ精神もまた、観光資源といえるのかもしれませんが。

(4) 観光地としての近江八幡

近江八幡は古くは豊臣秀次の城下町として栄えたまちであり、近江商人発祥の地としても知られています。伝統的な商家の町並が八幡山の麓の旧市街地に残っています。ま

た水郷や、時代劇のロケ地として有名な八幡堀もあります。八幡堀は、仲間由紀恵主演の「大奥」や、妻夫木聡主演の「憑神」の撮影でも使われました。この町並は1991年に重要伝統的建造物群保存地区(すなわち伝建地区)に選定され、2002年には読売新聞社主催の遊歩百選にも選定されています。このように近江八幡は近世日本の風情、情緒を色濃く留めたまちです。但し、近江八幡は観光地としては、黒壁や盆梅で有名な長浜や世界遺産候補地の彦根城がある彦根に比べるとその勢い及び知名度は劣ってしまいます。観光地としての近江八幡について名鉄東武観光バス 東岡崎旅行センターで話を聞いてみたところ「近江八幡というと、水郷と近江商人というイメージ。全国の他の観光地に比べてマイナー」という言葉が返ってきました。アドバイスを求めたところ「観光バスの駐車場など受け入れ態勢を整えるべき。何か観光客が魅力を感じるイベントを開催するといったのでは」ということでした。近江八幡は、伝建地区に選定されるなど、美しい景観を維持しており、観光地としての要素をもっています。しかし、宣伝活動が少なくインパクトがないため観光地としての知名度が低いようです。魅力ある近江八幡をもっと宣伝して「近江八幡を訪れてみたい」と思わせることが必要となると考えられます。

昨年夏に、岐阜県高山市で開催された飛騨高山観光大学のディスカッションでは「観光客がそのまちを歩く気になるかがポイント」、「住民のもてなしの心が重要」という意見が出ました。この二つの観点から近江八幡を見ると、観光の中心部である水郷や八幡堀周辺の観光客が実際に歩く道には、観光客が歩く気になるような魅力的な要素があまりに乏しいという問題があります。更に、JR近江八幡駅から観光の中心部まで2キロ以上離れており、アクセスが悪いという問題もあります。その中で池田町洋風住宅街やヴォーリス記念館は、駅から八幡堀や水郷までの道程を楽しく結ぶものと考えられます。

住民のもてなしの心という面では、まちおこしをしている人に話を聞いたときや観光の中心部で働く人々と触れ合ったとき、観光に対する意識の低さが目立ちました。更に、ヴォーリス記念館ではヴォーリスを大切にすあまり観光客が訪れることすら快く思っていないようでした。ヴォーリスという人物だけを見ていて、近江八幡の歴史のなかに彼の存在があることを見ていないように感じました。ヴォーリス精神、つまり奉仕の心は、この地の観光に携わる人々が学ぶべきことだと思います。ヴォーリス精神から学んだもてなしの心をもつことで近江八幡の観光地としての印象も変わってくるのではないのでしょうか。

3. 結論

近江八幡観光物産協会の会長に話を聞いたときにも「ヴォーリスが遺したものを観光の目玉にしたい」という気持ちはあるように感じました。しかし、ヴォーリス記念館の閉鎖的な態度など観光物産協会との温度差が生じているのが現状です。現在のままでは観光客に魅力を感じさせることは困難です。温度差を解消するためにも近江八幡の歴史のなかにヴォーリスをきちんと位置付けていき、観光資源としての価値を住民の人々に理解してもらえるよう協会自身が評価軸を定める必要があると思います。その上で、全国的に知名度の低い彼の魅力を雑誌などメディアを通してもっと宣伝していくべきだと思います。

ヴォーリス建築は目で楽しむことができ、ヴォーリス精神は心で感じることができます。そのヴォーリス建築は、近江八幡のまちを空間的につなぐ役割を果たし、あるいは秀次の築いた近江八幡と現代の近江八幡を時間的にもつないでいます。そして、ヴォーリス精神はもてなしの心で人々をつないでいるのです。こうした視点からヴォーリスの遺産を再評価できれば彼が遺したものは観光資源としての役割も果たすと考えられます。

ヴォーリズが遺したものは観光資源として活かすことでより一層輝きを放つと思います。それはこの地の発展に貢献した彼への恩返しともなることでしょう。

引用文献 引用順

- 1) 浦谷道三：「ヴォーリズ」, p.6, 近江兄弟社学園同窓会, 1983.
- 2) ウィリアム・メレル・ヴォーリズ：「吾家の設計」, p.4. 近江ミッション図書販売部, 1923.
- 3) 近江兄弟社ほか編：「日本人を越えたニホン人 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ」, p.25, びわ湖放送, 1998

参考文献 発行年順

- ・ ウィリアム・メレル・ヴォーリズ：「吾家の設計」, 近江ミッション図書販売部, 1923.
- ・ 一柳米来留：「失敗者の自叙伝」, 近江兄弟社, 1970.
- ・ 浦谷道三：「ヴォーリズ」, 近江兄弟社学園同窓会, 1983.
- ・ 山形政昭：「ヴォーリズの住宅」, 住まいの図書館出版局, 1988.
- ・ 山形政昭：「ヴォーリズの建築 ミッション・ユートピアと都市の華」, 創元社, 1989.
- ・ 近江兄弟社ほか編：「日本人を越えたニホン人 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ」, びわ湖放送, 1998
- ・ 近江兄弟社：「近江兄弟社と W . M . ヴォーリズ」, 近江兄弟社, 2000.
- ・ 近江八幡観光物産協会：「おうみはちまん 観光・物産ガイドブック」, 近江八幡観光物産協会, 2001.
- ・ 山形政昭：「ヴォーリズの西洋館 日本近代住宅の先駆」, 淡交社, 2002.
- ・ 近江八幡観光物産協会：「滋賀県近江八幡 水都八都」No.20, 2004.
- ・ ヴォーリズ委員会：「Vories for ever 今に生きるヴォーリズ」, 2004.
- ・ ヴォーリズ委員会：「建築にみるヴォーリズと近江八幡」, 2004.
- ・ スリーシーズン編：「週刊 日本の町並み 近江八幡・五個荘」, 学習研究社, 2005.
- ・ BBCびわ湖放送：「湖国の道だより すいすい啓蟄」第6号, 国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所, 2005.
- ・ 奥村直彦：「W・メレル・ヴォーリズ - 近江に『神の国』を」, 近江兄弟社湖声社, 2006.
- ・ 道城献一：「『いのち』輝かせて - ヴォーリズが遺したもの」, 近江兄弟社学園, 2006.